

民藝100年 × 首里城正殿再建

柳宗悦が讃えた沖縄工藝の価値をあらためて捉え直す展覧会

柳宗悦が出会った沖縄の美 琉球の民藝

～かつて柳が「宝の山」と称賛した至宝約100点を一挙展観～

日本橋高島屋・大阪高島屋の2会場にて、2026年8月より順次開催

【会期】日本橋高島屋S.C. 本館 8階ホール | 2026年8月26日（水）～9月6日（日）

大阪高島屋 7階グランドホール | 2026年9月9日（水）～9月21日（月・祝）

株式会社高島屋（以下、高島屋）は、日本民藝館の主催、沖縄県の後援のもと、展覧会「柳宗悦が出会った沖縄の美 琉球の民藝」を、日本橋高島屋S.C.（2026年8月26日～9月6日）および大阪高島屋（2026年9月9日～21日）の2会場にて開催いたします。

2019年の火災で焼失した首里城正殿の再建が予定される本年。それと時を同じくして、柳宗悦らが「民藝」の理念を確立してからちょうど100年という記念すべき節目を迎えます。本展は、沖縄の文化や工芸への関心がますます高まる中で、かつて柳がその美しさを「宝の山」と言及し、魅了され、生涯を通して讃え続けた沖縄工芸の不変の価値をあらためて見つめ直す展覧会です。



開催概要

展覧会名 | 柳宗悦が出会った沖縄の美 琉球の民藝

会期会場 | 【東京会場】

■日本橋高島屋S.C. 本館 8階ホール：2026年8月26日（水）～9月6日（日）

午前10時30分～午後7時(午後7時30分閉場) ※最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)

【大阪会場】

■大阪高島屋 7階グランドホール：2026年9月9日（水）～9月21日（月・祝）

午前10時～午後6時30分(午後7時閉場) ※最終日は午後4時30分まで(午後5時閉場)

主催 | 日本民藝館

協力/後援 | 日本民藝協会/沖縄県

企画協力 | JR東海エージェンシー

入場料 | 一般1,200円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

※入場券はローソンチケット、セブンチケット、イープラスにて販売。会期中は会場の展覧会入場券売場でもご購入いただけます。

※障がい者手帳ご提示による優待制度あり

ホームページURL | https://www.takashimaya.co.jp/store/special/ryukyu_no_mingei_ten/

開催背景とみどころ

大正末期から昭和にかけて「民藝運動」を推進した宗教哲学者・柳宗悦（1889-1961）は、同級生であった琉球王家尚家第21代当主・尚昌侯との縁をきっかけに沖縄の工芸に魅了され、1938年から4度にわたり現地を訪れて調査と蒐集を行いました。当時の沖縄で彼が出会ったのは、独自の風土から生まれた色彩豊かな染織や、力強くも大らかな陶器などの手仕事でした。

高島屋は、1934年の「現代日本民藝展覧會」をはじめ、民藝運動の初期から彼らの芸術論に賛同し数々の「民藝展」を企画・開催し、生活の中に息づく用の美を社会に提唱し続けてきた歴史を有しています。その絆のもとで開催される本展では、日本民藝館が所蔵する琉球民藝コレクションを中心に、暮らしと芸能に根ざした道具の数々、さらに柳と共に沖縄を旅した芹沢銈介、河井寛次郎、濱田庄司ら民藝運動の作家たちが沖縄から学び制作した作品など、約100点を系統立てて展覧いたします。生活の道具と表現文化が一体となって育まれた琉球の風物の豊かさと、高島屋が初期から並走してきた民藝運動の精神の息吹を会場でご体感いただけます。

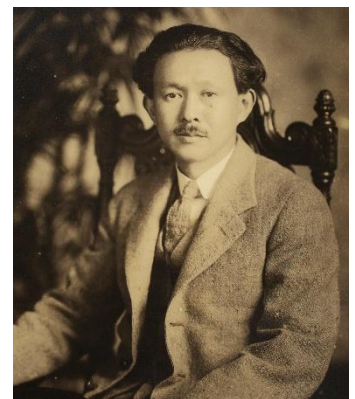


民藝とは

1925年（大正14年）に、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らによって生み出された「民衆的工藝」の略称。それまで美術界で顧みられることのなかった、名もなき職人が作った日常生活道具（器、家具、衣服など）に目を向け、そこに宿る健全で健やかな美しさを「用の美（ようのび）」として称え、見出す思想および運動です。急速な工業化が進む中、日本各地の手仕事の伝統を守り、生活を美化することを目指しました。

柳宗悦とは

1889年-1961年。東京生まれの宗教哲学者・美術評論家。学習院高等科時代に雑誌『白樺』の創刊に参加し、西洋近代美術や文学を日本に紹介。その後、朝鮮半島の陶磁器や日本全国を巡る中で出会った木喰仏（もくじきぶつ）などの美に感銘を受け、民藝運動を提唱しました。1936年には自ら蒐集した工芸品を展示・公開する拠点として、東京・駒場に「日本民藝館」を開設し、初代館長に就任。生涯を通じて、独自の審美眼で新しい美の価値観を社会に提示し続けました。



柳宗悦 1933年高島屋東京店にて撮影

展示構成



序章 柳宗悦と沖縄民藝との出会い

沖縄紅型の魅力を、紅型衣裳と型紙、柳自身の言葉とともに紹介し、沖縄に惹かれた原点を紹介します。



木綿芋麻白地雲青海波菊牡丹文様紅型衣裳
(123.3×121.0cm、19世紀)



第一章 琉球の染物

沖縄を代表する染色文化である『紅型』を中心に、多彩な衣裳や型紙を展示し、色彩と意匠が生み出される背景を紹介します。柳が惹かれた沖縄紅型の魅力に迫ります。



芋麻紺地井桁に古の字松竹梅紋様紅型風呂敷
(48.5×49.0cm、19世紀)



芋麻水色地波枝垂桜楓梅紋様紅型衣裳
(152.0×125.0cm、19世紀)

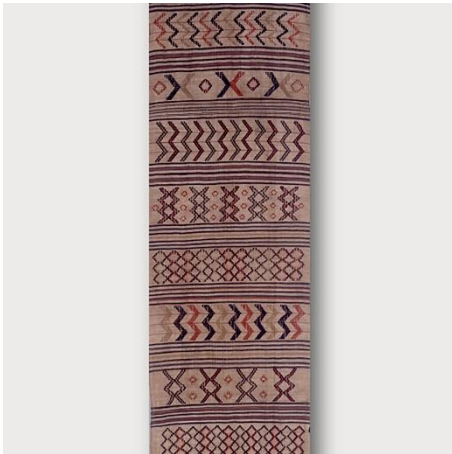


木綿染分地雲に鶴亀遠山文様紅型衣裳
(158.0×146.0cm、19世紀)



第二章 琉球の織物

芭蕉布、緋などの織物を通じて、生活に根ざした布の多様性と琉球の織文化の広がりをご紹介します。



芭蕉木綿白地手花手巾
(82.0×24.0cm、19世紀末～20世紀初期)



芭蕉経緋衣裳
(124.0×123.6cm、20世紀初期)



桐板白地経緯緋着物
(139.0×115.0cm、19世紀)



第三章 琉球の焼物

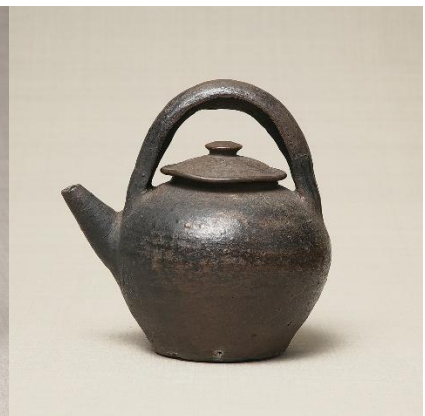
壺屋焼や、酒壺や抱瓶（だちびん）、皿や鉢など日常で使われた器を展示し、陶工達が培った素朴で力強い造形と、地域風土が育んだ独自の土の美を伝えます。



白掛色差線彫蓋物 壺屋
(11.0×11.0cm、19世紀)



飴釉白打双耳仏花器 壺屋
(18.2×8.4cm、19世紀)



焼締按瓶 壺屋
(26.3×21.4cm、19世紀)



第四章 琉球の風物

踊り着や芝居幕、籠や枕箱、張り子人形など、沖縄の暮らしと芸能に根ざした道具を網羅。生活の道具と表現文化が一体となって育まれた、琉球の風物の豊かさを展示します。



あかとり
(19.0×31.2×29.0cm、1939年頃)



笠
(高21.6 径39.6cm、1930～50年代)



厨子甕
(64.0×60.0×54.0cm、第二尚氏時代)



紺地紋入鶴亀松竹梅文様紅型芝居幕
(175.0×200.0cm、19世紀)



第五章 沖縄と民藝運動の作家たち

芹沢銈介、河井寛次郎、濱田庄司といった民藝運動の作家たちや戦後の作家による作品群を展示します。



型そめ琉球風物 芹沢銈介
(62.4×79.4cm、1939年)



沖縄笠団扇文着物 芹沢銈介
(丈160.0cm、1960年頃)



呉須地辰砂花文扁壺 河井寛次郎
(23.4×24.0×13.0cm、1940年頃)



鉄絵共手土瓶 濱田庄司
(25.8×19.0cm、1941年)



色絵草花文福字皿 鈴木繁男
(7.0×25.0cm、1939年)

映像コーナー

文化映画「琉球の民藝」を上映。戦前の沖縄の風景や生活の姿、暮らし・芸能が息づく風土を視覚的に提示します。

展示・即売「民藝展」

展示会場に隣接する催事会場では、全国各地から用の美が集う民藝展を3年ぶりに開催します。

今年は民藝の理念にある地域性に立ち返り、各地の郷土・文化を受け継ぐものづくり、民藝のスピリットを持つ様々な作り手の品々をご紹介します。さらに民藝について理解を深める、イベント（トークショー・ワークショップ）も開催予定です。



【東京会場】

会期：2026年8月26日（水）～9月7日（月）各日午前10時30分～午後7時30分 ※最終日は午後6時閉場。
会場：日本橋高島屋S.C. 本館 8階催会場

ほかに ●本館7階 ギャラリー暮らしの工芸・民藝のわ／8月26日（水）～9月8日（火）
※最終日は午後4時閉場。

●本館1階 正面イベントスペース／8月26日（水）～9月1日（火）

【大阪会場】

会期：2026年9月16日（水）～21日（月・祝）各日午前10時～午後7時 ※最終日は午後6時閉場。
会場：大阪高島屋 7階催会場

展示・即売「民藝展」主な出展内容：

■各地の民藝の品々 浄法寺塗・小久慈焼・南部鉄器・松本民芸家具・瀬戸本業窯・出西窯・袖師窯
湯町窯・鍛冶工房弘光・小鹿田焼・読谷山焼北窯・琉球ガラス・紅型 ほか

※期間、店舗により取り扱い内容が異なります。

■民藝店・手仕事店 鳥取たくみ工芸店（鳥取県）・銀座たくみ（東京都）・くらしのギャラリー（岡山県）
うつわ 暮らしの道具 テクラ（静岡県）・遠近※日本橋店のみ（徳島県）・テマヒマ※大阪店のみ（大阪府）

※会期・内容等が予告なく変更・中止となる場合がございます。

出展内容、イベントの詳細は7月中旬、ホームページにて公開予定。

ホームページURL：<https://www.takashimaya.co.jp/store/special/mingei/>

タカシマヤコラムでも民藝の情報を発信中。

https://www.takashimaya.co.jp/column/tag/38/?utm_source=prtimes&utm_medium=pr&utm_campaign=mingei

【お問い合わせ】

日本橋高島屋 03-3211-4111（代表）／大阪高島屋 06-6631-1101（代表）

【報道関係のお問い合わせ】

「琉球の民藝」広報事務局（ユース・プランニング センター内）

TEL：03-6821-8261 FAX：03-6821-8869 E-mail：ryukyu-mingei2026@ypcpr.com